

平成27年度第3回 横浜美術館指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 平成 27年 8月 10日 (月) 14時 00分 ～ 15時 00分

2 場 所 横浜美術館 円形フォーラム

3 出席者 丸山委員、酒井委員、西田委員、村井委員、吉本委員

4 欠席者 なし

5 傍聴者 なし

6 議事内容

議題	<p>1 定足数の確認</p> <p>2 委員長の選出</p> <p>3 委員会の公開・非公開について</p> <p>4 平成26年度指定管理者事業の外部評価について</p>
委員意見等	<p>1 定足数の確認 委員数5名のうち5名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>2 委員長の選出 議事に先立ち、横浜美術館指定管理者選定評価委員会運営要綱第6条に基づき、委員の互選により丸山委員を委員長に選任した。</p> <p>3 委員会の公開・非公開について (審議結果) 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜美術館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。</p> <p>4 平成26年度指定管理者事業の外部評価について (経営についての評価) (委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主財源の開拓について、一層の努力をというだけでなく、具体的に構想を立てるなど、そのような方向も求められる。全体的には、非常に優れた取組を行っている。 ・市文化観光局で行っている「外国人来訪者動態調査」の中で横浜美術館は最も多くの外国人が訪れた市内文化施設となっている、今後、それを積極的に吸収できるような経営を望む。 ・内部の各プロジェクトが着実にステップアップしていることを評価したい。 ・経営という視点では、必ずしも数字だけで捉えるべきではないと考える。横浜美術館は、活発な活動をしているという印象が高まっている。 ・外部評価はBとする。 <p>(事業①についての評価) (委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展に関しては、利用者数の目標値は達成できていないが、前年の課題であった「若手アーティストの創作支援と発信」「横浜トリエンナーレへの取組み」については成果が大きかった。個別

評価はAとする。

- ・ホイッスラー展とヨコハマトリエンナーレ2014は、質の高い内容であるが、広報については、今後、魅力をよりわかりやすくタイミングよく伝えることを期待する。「若手のアーティストの創作支援と発信」についての個別評価はAとする。芸術文化の観点からは、チャレンジ精神に富んでいて、すぐれた事業内容の展開に注力しており、横浜美術館ならではの取組ができています。
- ・日本の美術館全体としても言えることだが、企画を行うにあたり、学芸員の人数が少ない。企画内容としては、良く実施できている。今後は県内などの文化施設との積極的な連携も期待する。
- ・外部評価はBとする。

〈事業②についての評価〉

(委員)

- ・コレクション展の質は極めて高く、海外展開を実現し、今後の積極的な取組への姿勢が明確に打ち出されていることから、個別評価はA評価とする。
- ・企画展とコレクション展の連動が、鑑賞者にとって非常に魅力ある内容となっている。
- ・横浜美術館のコレクションの写真などまとまった借用依頼などはあったか。

(指定管理者)

- ・30点程度の借用依頼はあった。現在、まとまったコレクションとして発信することをメディアと進めている。2016年から2019年ぐらいの間で、国内外へのコレクションの巡回をメニュー化し、メディアと進めていくことを調整している。

(委員)

- ・コレクションを積極的に貸し出すことで収益も上げられる。今後そのようなことも期待する。
- ・今後、美術情報の図書等のデジタル化については、どのような方針か。

(指定管理者)

- ・寄贈された図書等のデジタル化は、機器のアップデートも必要となり、予算をかけたどのような構想で実施するか綿密な方針がなければ中途半端になってしまう。現在は、多くの方に無料で情報を提供するために、物としての書籍を中心として継続的に収集している。

(委員)

- ・外部評価はAとする。

〈事業③についての評価〉

- ・政策目標に対し、体制を強化した点、多様なプログラムを開発・実施している取り組み姿勢、また、誰もが参加できる教育普及事業を実施できていることを高く評価し、個別評価はAとする。
- ・多様な鑑賞者へのユニバーサルプログラムを展開していることを評価する。
- ・市民協働では、飛躍的に年々さまざまな取組を行っており、ガイドボランティアなどでは取組の進捗が見られる。今後、より市民の発想を取り入れるなどで協働を推進していることを期待する。また、多様な団体との連携により、誰もが美術の世界に親しむ機会を提供していることを評価する。
- ・市民と美術をつなぐ普及活動は、総合的にも個々の取組でも非常に高い水準で実施している。
- ・指定管理者制度の導入以降、多岐に渡る取組を積極的に実施する姿勢が見られる。また、中学生、高校生のボランティアの育成も評価できる。
- ・外部評価はAとする。

〈施設の運営事業等についての評価〉

(委員)

- ・「施設の運営事業②」に関しては、体制の整備に力を入れ、人材育成面でも成果を上げている。各部門の職員のモチベーションが高いレベルで維持できている。
- ・市には、市の担当者が変わっても、政策協働による指定管理の推進という点を形骸化することなく、先導的な姿勢で取り組んでほしい。
- ・人員計画に関しては、国際化・利用者層の拡大を図るため、人員を強化し、成果を上げているため個別評価はA評価とする。
- ・自主財源の開拓では、市民ファンドなど、市民が美術館を応援する仕組みなどを今後期待する。
- ・「3 施設の運営事業①」の外部評価はBとする。
- ・「3 施設の運営事業②」の外部評価はBとする。
- ・「4 その他の業務」の外部評価はBとする。
- ・「5 収支計画」の外部評価はBとする。
- ・「6 人員計画」の外部評価はBとする。
- ・「7 留意事項」の外部評価はBとする。

〈基本方針についての評価〉

(委員)

- ・基本方針の4つの項目から、定性的に評価し、その中で(1)では、ヨコハマトリエンナーレ2014、海外初のコレクション展を実施したことで大きな成果を上げた。(3)では、中高生のボランティアの育成、若手作家への支援、誰もが美術鑑賞できるプログラムの実施など、新しい事業にも積極的に取り組む姿勢があったことを高く評価する。今後、企画展において横浜美術館らしさや質を維持、向上させるための取組を期待する。
- ・ヨコハマトリエンナーレ2014やシンガポール美術館におけるコレクション展の開催など国際的な取組を実施している一方、教育普及や市民協働、企業連携など地域的な活動にも積極的に取組を行っている。また、市民と美術館の多様な関係性を作る取組も実施できていることを高く評価する。
- ・ヨコハマトリエンナーレ2014は独自性も高く、中高生の鑑賞講座など、多岐にわたる取組を高く評価する。
- ・総合的に非常に良好な事業運営を行っており、Aに近い質の高い事業経営と運営ができている。
- ・公立の美術館は、地域との関係性が課題としてあり、一方で国際的な取り組みも求められるがこの点に関し、横浜美術館では良く実施できている。
- ・芸術鑑賞機会の提供、地域文化の長期的な成熟支援の両面について、積極的に取組を行っていることを高く評価する。
- ・外部評価はBとする。

議事は以上